



高田  
生吉

坂村眞民



念  
生  
心



坂  
崎  
良  
民

## 念に生きる

平成十六年二月十一日第一刷発行

著者 坂村真民

発行者 藤尾秀昭

発行所 致知出版社

〒107-0062 東京都港区南青山六の一の二十三

TEL (〇三) 三四〇九一五六三二

印刷・製本 中央精版印刷

落丁・乱丁はお取替え致します。

(検印廃止)

©Shinmin Sakamura 2004 Printed in Japan

ISBN4-88474-670-8 C0095

ホームページ <http://www.chichi.co.jp>

Eメール [books@chichi.co.jp](mailto:books@chichi.co.jp)

## 念に生きる

坂村真民

わたしの一生は何であつたろうか。

そう考える歳になりました。

そして思ったのが「念に生きる」でした。

「坂村真民全詩集」第七巻が出来た時、扉書きに何と書こうか、第八巻は死後のものとなるだろうから、扉書きするのは、この七巻で終わりになるだろうとも思い、「念に生きる」としました。

わたしの戸籍名は昂たかしです。

これは父がつけたのでしよう。

意気軒昂という言葉があり、長男のわたしに、そんな人間になつてもらいたいと思つたのでしよう。でも父は四十の厄（やく）を越えきらず亡くなりました。

それで母が心配して尊敬する人に尋ねたらお父さんより早く死ぬと言ったそうです。そんなことから、真民と改名してくれと母の切なる願いで、伊勢の学校に入り短歌をやりだした時、真民の名を用いて母の念願に応えました。

わたしが九十の齡（よわい）を越えることができたのは、母の念のおかげだと思うようになりました。だから念には母の思いがこもっています。母の一生も残された五人の子を育てあげる念の一生でした。

わたしは母の願い通りの人間にはなりませんでしたが、わたしはわたしなりの念で生きてきました。

賦算誌「詩国」が一回も休刊しなく五百号に達したのも念のおかげです。また弱い体のわたしが九十歳を越えることができたのも念のおかげと思います。念にはそういう不思議な宇宙生命のようなものがあると思います。

わたしのために詩墨集『念に生きる』を作っていたいた藤尾社長さまに厚く厚くお礼を申しあげます

やっとならで「念」の三部作ができあがったことになります。

第一集 念じてください（大東出版社）

第二集 念の一道 (大東出版社)

第三集 念に生きる (致知出版社)

これでいつでも「飛天」になれる思いがします。

二千四年 平成十六年 一月六日 満九十五歳の誕生日に

タンポポ堂 真民

## 念に生きる●目次

念に生きる 坂村真民

1

## つねに前進 つねに一步

鳥は飛ばねばならぬ

10

自戒ノウタ

12

つねに前進

14

おのずから

16

タンポポ魂

18

前から後ろから

20

六魚庵箴言

22

六魚庵独語

24

時間をかけて

26

すべては光る

28

ねがい

30

あとから来る者のために

32

なやめるS子に

34

行動

36

なにかわたしにでもできることはないか

38

生きてゆく力がなくなるとき

40

## 花一輪の宇宙

花

42

梨花序詩

43

花と仏

44

桃咲く

45

石を思え

46

影

47

願い

48

風

49

二つの祈り

50

気海丹田

充実と更新

歓喜

花一輪の宇宙

光る

接点

昼の月

みめいこんとん

サラリ

## わたしの詩

わたしの詩

七字のうた

念ずれば花ひらく

尊いのは足の裏である

ねがい

52

54

56

58

60

62

63

64

66

68

70

72

74

78

念ずる心

一貫

一字一輪

報謝

華嚴力

対面

六魚庵主の願い

詩は万法の根源である

ただわたしは

嵐と詩人

かなしみはいつも

二度とない人生だから

幸せの帽子

今

一年草のように

|            |     |
|------------|-----|
| 生きていることは   | 102 |
| こちらから      | 104 |
| めぐりあい      | 106 |
| 二度とない人生だから | 110 |
| 会いたき人あれば   | 114 |
| しんみん五訓     | 115 |
| 一途一心       | 116 |
| 本気         | 118 |
| 一期一会       | 120 |
| 時          | 122 |
| 母念         | 124 |
| もつとも美しかった母 | 126 |
| 延命の願       | 128 |
| リンリン       | 129 |
| あとがき 藤尾秀昭  | 130 |

つねに前進

つねに一歩

鳥は飛ぶが空を  
人は生きたが空を

月民

鳥は飛ばねばならぬ

鳥は飛ばねばならぬ

人は生きねばならぬ

怒濤の海を

飛びゆく鳥のように

混沌の世を生きねばならぬ

鳥は本能的に

暗黒を突破すれば

光明の島に着くことを知っている

そのように人も

一寸<sup>いっすん</sup>先は闇ではなく

光であることを知らねばならぬ

新しい年を迎えた日の朝

わたしに与えられた命題

鳥は飛ばねばならぬ

人は生きねばならぬ



道  
アセラズ  
クニセズ  
シズカニ  
ジデシノ道ヲ  
マッスグニ  
行ケ  
丹氏  
印

## 自戒ノウタ

小サナ家ニイテモ

ココロ貧シクナルナ

マズイモノヲ食ッテイテモ

物欲シクナルナ

耐エガタイコトガアッタラ

一本ノ木ヲ見ツメテ

勇氣ヲ出セ

生命ヲツカムタメニハ

素直ニナラナケレバナラヌ

アセラズ

クニセズ

シズカニ

ジブンノ道ヲ

マッスグニ行ケ

出

つかに前道

はてとてまゝ

にこそまゝ

つかに前道

つかに前道

つかに前道

つかに前道

つかに前道

出